

## 謝辞

入学前より本日に至るまで、多くの方々のご支援・ご配慮を受けながら学びの機会として本学で成長させていただきました。お力添えをくださった皆様に、この場をお借りして御礼を申し上げます。

本課題研究に際し、ご指導賜りました瀬戸屋希教授に心より感謝申し上げます。精神看護学研究室の先生方には、課題研究作成期間中のみならず、特論や演習・実習のご指導など、在学期間中、ご丁寧なご指導と温かいお心遣いをいただきました。進学を後押し頂きました鈴木千晴看護部長、入学の許可をいただき一からご指導いただきました萱間真美先生には心より感謝申し上げます。

また、精神看護ゼミの皆様からも貴重なご指導をいただきました。特に演習、実習におきましてご指導賜りましたリエゾン精神看護専門看護師の諸先輩方には、今後を見越し臨床の場で生かせるよう上級実践看護について丁寧なご指導をいただきました。ご多忙の折に多大な時間を費やしながらご教授いただけましたこと、心より感謝申し上げます。

入学前から在学期間中に新たな視点を常に与えてくださった深山香代子ナースマネージャー、学生生活を通して精神的にも支えてくださった岩田多加子リエゾンナースはじめリエゾンセンターの皆様には、ご助言をいただきながらいつも温かく見守っていただき、心より感謝申し上げます。

修士課程で学ばせていただきましたことを看護実践に活かし、新たな臨床であらためて役割開発を行いながら、聖路加国際大学・聖路加国際病院との橋渡しとしても、組織全体に貢献できればと思います。

本研究は、2021年度聖路加フェロー奨学金授与にて行ったものです。御礼申し上げます。

2023年1月31日

宮原 慶江